

昨年度からの変更点

2022年4月1日に指針及び様式を一部改定いたしました。
新指針に沿った、新様式での提出をお願いいたします。

横浜市 環境創造局
環境管理課（計画書制度担当）

- 1 指針の主な変更点
- 2 様式の主な変更点
- 3 指針、様式の変更に伴う入力方法の変更点

1 指針の主な変更点

➤ 基礎排出量の算定方法の変更

これまで算定の際、電気の排出係数は基礎排出係数を使用し、計画期間中の3年間は排出係数を固定していましたが、変更後は、**毎年最新の基礎排出係数を使用**し、契約する電力会社やプランが変わるたびに排出係数を変更していただきます。

→この変更により、「省エネの徹底」に加え、「再エネ導入」によるCO2削減効果を適切に把握します。

【算定方法】

$$\text{基礎排出量 (t-CO}_2\text{)} = \sum \left(\text{エネルギー種類ごとの使用量} \times \text{エネルギー種類ごとの排出係数} \right)$$

電気の排出係数を次の通り変更
(変更前) 基準年度の基礎排出係数
(変更後) 毎年最新の基礎排出係数

2 様式の主な変更点

➤ 細則第37号様式の2及び細則38号様式の2

提出書の様式
(計画書及び報告書)

- ・「旧事業者名称」等の記入欄を廃止しました。

→事業者IDで管理するため、旧事業者名を（ ）等で書いていただく必要はありません。

➤ 細則37号様式

計画書の様式

- ・総括票及び個別票の「温室効果ガスの排出の抑制に係る目標等の状況」の表レイアウトを変更しました

→記入項目に変更はありません。

➤ 細則38号様式

報告書の様式

- ・個別票の「温室効果ガスの排出の抑制に係る目標等の状況」の基準年度、目標年度及び過年度の排出量・削減率の記入欄を廃止しました。

→今後は、実施年度の排出量のみを記入してください。

3 指針、様式の変更に伴う入力方法の変更点

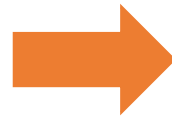
➤ 根拠算定ツール（エクセルファイル）

[2.事業所一覧] シートで入力いただいていた、電気の排出係数の入力方法が昨年度までと異なります。

【入力方法】

昨年度（2021年度）まで

[2.事業所一覧] シートにおいて、東京電力等の主要な電力会社はプルダウンによる選択式、それ以外の電力会社は直接入力。



本年度（2022年度）

- ① [排出係数一覧] シートに記載のリストから、利用している電力会社の「登録番号+メニュー (A00XX_メニュー-X)」をコピー
 - ② [2.事業所一覧] シートの指定セルに貼り付け
- ➔電力会社名と排出係数が自動で表示されるため、基本的に直接入力いただくことはありません。

3 指針、様式の変更に伴う入力方法の変更点

➤ 根拠算定ツール（エクセルファイル）

【参考情報】

電気の排出係数の入力方法変更の他に、下記の通りシートを修正しました。

シート名	昨年度（2021年度）まで	本年度（2022年度）
自動転記（旧：操作）	シートを最左に配置	➔最右に配置
4.集計結果	転記対象の値が表の上部や下部のセルに点在	➔表上部に集約して配置
5.原単位	報告書用と計画書用に2つのシートが存在	➔1シートに統一

3 指針、様式の変更に伴う入力方法の変更点

➤ 計画書／報告書（エクセルファイル）

報告書と次期計画書を、一つのファイルで作成するよう変更しました。報告書と次期計画書の重複項目は、報告書からの参照で次期計画書に自動入力されます。詳細は、計画書の記入例、補足説明を参照してください。